

釧路南ロータリークラブ会報

第 32 回 例会 報告 2011.3.4 通算 1386 回

・ 点 鐘

木内会長

・ 会 長 挨拶

・ ローターソング

「君が代」「奉仕の理想」「四つのテスト」



ソングリーダー 長倉 巨樹彦会員



会員と、お客様の皆様こんにちは。
今日は3月の第一例会となっております。昨日、今日と札幌方面では吹雪模様ですが、釧路は雪も少なく、寒さも昔から見れば、地球温暖化の影響で、暮らしやすくなっていると感じております。
釧路も先日雪が降りましたが、私も朝4時に除雪車で、賃貸している駐車場と信組の除雪をいつもやっておりますが、ご用命があれば、伺いますのでご利用下さい。料金は無料にはできませんが、ロータリー価格にて引き受けいたします。
話は変わりますが、3月19日(土曜日)に第7分区のIM(インターミーティング)が開催されます。
今日は山本秀基(やまもと・ひでき) 実行委員長、釧路西ロータリークラブが開催にあたってのご挨拶にお見えになっております。
今回は3クラブがホストになり開催しますが、柴田ガバナーの地区活動基本方針の中にある、地区指導者育成と補佐輩出クラブの負担軽減。
少人数クラブからの優れた人材の発掘を推進するとあります。
あまりこれ以上お話をすると、実行委員長にご迷惑をお掛けしますので終わりにします。
のちほど、よろしくお願い致します。
以上、会長挨拶とさせていただきます。

・ お客様と来訪ロータリアンの紹介

釧路西ロータリークラブ 山本秀基 IM実行委員長

・ 入 会 記 念 祝

長井 一広会員 H 20. 3. 7 (3 年 目)

・ 誕 生 祝

安藤 整治会員 S 24. 3. 1 (62 歳)



・幹事報告



- * 釧路北RC、釧路西RC、釧路東RC、釧路ベイRC、根室RC、厚岸RCより3月のプログラムを拝受しております。
- * 釧路市総合政策部より、22年度第4国際交流地域懇談会、開催のご案内が届いております。日時は、3月24日(木)13:30~16:00までプリンスホテルにて行われます。出席されたい方は私までお知らせください。
- * くしろ暮らしのミニガイドが届いております。8部しかありませんので回覧しております。

・委員会報告

親睦委員会

- ・本日のニコニコ献金
長井 一広会員 入会記念祝として
安藤 整治会員 誕生祝として

出席委員会

会員 25名 11名出席 出席率 44%

■山本秀基 I M 実行委員長



3月19日開催 I M ご案内

・本日のプログラム

「識字率向上月間に因んで」

担当 奉仕プロジェクト委員会

■奉仕プロジェクト委員長 福井克美



○RI会長のテーマ

レイ・クリンギンスミスRI会長は、今年度のテーマに「地域を育み、大陸をつなぐ」としました。これは過去のRI会長テーマのほとんどがロータリアンだけに呼びかけるもので、ロータリアン以外の人々を対象にしていない事が分かり、ロータリアンとロータリアン以外の両者に呼びかけるテーマを考え、「地域を育み、大陸をつなぐ」としました。識字率の問題は、1986年から、国際ロータリーの強調事項となりました。

○ロータリーの方針

国際連合は非識字を、経済、政治、社会開発における最も重大な障害の一つと定義。1986年RI理事会は識字率向上を10年間のロータリー強調プログラムとしたが、1992年に2000年まで強調を延長し、機能的識字率向上にまでその範囲を拡大した。1997年度RI会長グレン・キンロスは、世界中の多数の非識字者を減少させるための語学教育として、CLE(語学集中講座)を用いたプロジェクトを導入。PDG リチャード・ウォーカーを委員長とする、識字率と計算力向上のタスクフォース(一時的な組織)を設置した。1985年に、ウォーカー博士は文部省と協力しながらタイの東部の小学校において、タイ語による試験的なCLEの取り組みをバンコクにおいて開発し開始した。

○識字能力とは

従来、識字能力とは読み書きの能力と定義されています。また、コンピューターを使う能力、病気の予防法を理解する能力、標識を見分ける能力など実用的な能力も含まれます。

- ・識字率向上に関連する重要な日

国際ロータリーが識字率向上について取り組み始めたのは、24年前の1986年で、国際ロータリーの強調事項となりました。「識字率向上月間」を定めたのは、それから11年後の1997年7月に定められました。それ以来毎年7月を月間としていましたが、2005年の理事会で、2006～07年度から3月に移行されました。

・識字能力の重要性

RI理事会では、世界中に識字能力向上の大切さを強調し、独自の識字率向上プロジェクトを開発し、ロータリアンが世界で行う取組を広報する絶好の機会を、「識字率向上月間」として世界的に識字率を高めるための機会としています。

○識字率の定義

- ・ 識字率は、一般には15歳以上の人口に対して定義される。
- ・ 母語における日常生活の読み書きができることを識字の定義とする。全世界の識字率は、約75%である。
- ・ 母語と公用語が異なる場合や、移民が多い国ほど識字率が低い。

○非識字率（UNESCOの推計）

成人非識字者は約7億7600万人。非識字者の多くは、子供の時から働かされている貧しい人々、女性、少数民族、戦争や内乱の犠牲になった難民など、成人非識字者のうち3分の2が女性である。さらに、学校に通えない児童数（6～11歳の子ども）は約7500万人います。途上国では、女の子より男の子の教育にお金を使う傾向にあります。学校内で性的嫌がらせを受けたり、女性用トイレがなかったり、早すぎる結婚、女性教員が少ないなどの理由で学校に行けないこともあります。こうした理由により、世界の非識字者の3分の2が女性です。カンボジアでは一人の教師が50人、モザンビークでは67人の生徒を教えている。教員の多くは公務員より安い賃金で、病欠中の保証もないため、教員の無断欠勤や人数の減少がおきている。2006年にザンビアのNGOが試算してところ、一世帯あたりに必要な生活費410ドル/月に対し、教員の平均給与は191ドル/月。また、タンザニアでは、2000年から2002年の間に教員の42%がエイズ関連で死亡。少数民族の学校建設を後回しにする国もあります。少数民族の言語での授業を認めなかったり、現地語を理解する教師が不足している。家で話す言葉と学校で教わる言葉が違うため、勉強についていけない生徒は自然と学校

から離れていく。読み書きや計算能力が備われば、内戦も少なくなり、経済発展も速やかで、人々が健康であると言えます。

○識字率向上プロジェクトの一例

- ・ 読み書きを母親に教えるプロジェクト
- ・ 育児の基本情報を母親に教えるプロジェクト 健康、衛生、栄養など
- ・ 若い女性の識字率向上を図って初産年齢を遅らせるプロジェクト。
- ・ 妊娠可能な若年者のための識字率向上プログラムの支援
- ・ 識字率向上、健康、飢餓、水、衛生の諸問題を結合したプロジェクト。
- ・ 親に対して基本的な健康と衛生に関する情報を提供する地域または国際的な識字率向上プロジェクト。
- ・ 水、健康、飢餓の複合プロジェクトのスポンサー・グループとの連携。
- ・ その他適切なプロジェクトの実施

毎年、1100万人の子供が飲料水の不足から死んでいる。清潔な水があればそれは防げる。全ての人々が読み書きできるためには1兆円/年の援助が必要。しかし実際は、その半分以下しか援助されていません。豊かな国がこの1兆円を国の豊かさに応じて分担したとすると、日本は、1300億円を援助する必要があります。ところが実際の日本の援助額はわずか300億円です。私たちには、どんなことができるか考えてみませんか。



・ 次回のプログラム

3月11日（金）

「新入会員歓迎会」夜間例会

会場 ラスティングホテル

担当：親睦活動委員会

・ 点 鐘 木内会長

今週の会報担当：佐藤玄史会員